

3

九ホ

ひとり酸素を大奪つて

高村光太郎



人が寝しづまると

空気が急に元素に分かれる。

嘔吐に似た詩の熟塊が

五臓を壓して逆轉する。

瞳はただひらいたまま

無気味に沈む寒夜の底を感じてゐる。

窓の外に往来がある、

往来に密行の剣。

世紀は口を閉ぢる、

獨り酸素を奪つて詩は夜天に燃え始める。

松島